

J-DESC 第17回マントル掘削WG会合 議事メモ

【日時】 令和5年8月10日(木) 10:00-11:00 オンライン会合

【参加者】(敬称略): 秋澤、阿部、石橋、稲垣、海野(WG長)、片山、草野、鈴木、針金、富士原、道林、森下、山下、監物、Moe(J-DESC事務局)

【欠席者】(敬称略): 小野、黒田、柵山、島、山田、末廣(アドバイザー)

1. 第16回会合の議事メモ案の承認及びHP掲載について

- 第16回会合の議事メモ案を承認とし、J-DESC ホームページに掲載する。

2. 次期国際海洋科学掘削プログラム(IODP³)や国際WS等について(事務局)

- IODP3(2024年以降のECORD-Japanプログラム)については具体的な枠組み・MOUなどについて調整協議が継続中。
- J-DESC主催の国際ワークショップ「Workshop on the future of SOD-Phase II」について2024年3月18-20日に和歌山県那智勝浦町にて開催予定。合わせて、一般向けシンポジウムについての開催も検討中。その事前会合として、12月19-20日に国内WS@JAMSTEC横浜研究所にて開催予定。
→海野委員長:本WGメンバーを含め、ハードロック掘削関係者の積極的な参加をお願いしたい。
- NSFの動向:協議が継続されている。スポット備船について検討中(「ちきゅう」を備船する可能性も視野に入れて検討したい)。まだ何も決まっていないとしつつも、国際協力について前向きになってきた感触。
- 稲垣委員:ワシントンD.C.にある米国科学アカデミー(NAS)にて開催された「海洋科学の10年(2025-2035)に関する課題調査(DSOS)」に関する会議について報告。Science Framework 2050の長期目標を踏まえつつも、新船建造までの時間(USが掘削船を持たない時間)と新船が建造された場合の初期段階を想定し、「米国主導による米国コミュニティのための10年プログラム」を意識した科学面での議論が展開された。NASが報告書と取りまとめ、NSFに提出する予定。

3. 文部科学省「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想(ロードマップ2023)」公募状況について(https://www.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/mext_00301.html)

- 森下委員:金沢大学学長名にて、無事に6月末に文科省に提出された。5分間の紹介動画を作成。これまでの特集号などに掲載されたコミュニティの意見が有用であった。

4. 事前調査について

- 阿部委員:欧州コミュニティによる海底構造探査がコスタリカ沖で実施されたようであるが、情報がない状態。情報収集を継続し、議論する場を作っても良いのではないか。
- 森下委員:ハードロックコミュニティとして、次の掘削の『押し』についての議論が必

要である。→3月のシンポジウムを通じて情報共有と議論を活性化し、国際的な機運情勢をつなげていく必要がある。

5. その他

- 阿部委員：海の女性ネットワークにおいて、J-DESC からハードロック掘削関連を話題に、中央大学での講演依頼あり。→J-DESC 理事会にて検討。
- 鈴木委員：ポツダムにて ICDP 国際 WS が行われた。IODP では岩石圏における地下生命圏研究がハイライトされているが、提案者側からの予算措置が必要な ICDP では掘削プロジェクトを牽引する強いイニシアティブはない。IODP-ICDP の連携として L2S (Land to Sea) がハイライトされているが、IODP と比較して、ICDP はどこまで外部予算が獲得できるかが課題。また、プロポーネントやプロジェクト参加者にとっても科研費レベルの外部予算獲得の努力だけでは難しく、研究活動を支えるためのトップダウン的な予算措置の仕組みが必要であるように思える。

以上。

//